

―農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法GAP―**＜特別賞（2014 年 GAP 普及大賞）＞**

高校生による生産・加工・販売を通じた幅広い活動を後押しする高度な GAP への取り組みが受賞しました。

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、7 月 3 日に GAP 普及大賞の選考委員会を開催し、山形県立上山明新館高校の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■特別賞受賞者：山形県立上山明新館高等学校（山形県）

農業高校の教育の中で GAP を扱うことが求められる中、全国の高校に先駆けて本格的な GAP 教育を行い、高校付属の農場で JGAP 認証を取得する経験や、加工・販売など幅広い活動を生徒に体験させ、次世代の農業者の育成と GAP を組み合わせた教育が高く評価されました。

高等学校の学習指導要領解説「農業編」で GAP の学習が求められ、全国の農業高校などで推進されているところですが、山形県立上山明新館高等学校の食料生産科では、平成 22 年 11 月に高校の中では早い段階で本格的な第 3 者認証（外部の専門審査機関から審査・認証を受ける）の仕組みを持つ JGAP 認証を取得しています。対象は、「ほおずき（食用）」、「べにばな」、「いちご」の 3 品目です。

学校の農場においてJGAPに基づく生産工程管理の基本を学ぶ一方で、生産物の加工食品の開発・商品化・販売まで高校生が主体となって取り組んでいます。さらには地元での講習会や研究発表会、各種のイベント、販売活動等を行う中でGAPについて地域住民や食品業者、消費者に向けて広く情報発信をしています。また、GAPを理解し身に着けた卒業生が農業分野や食品分野に進んでいくことにより、GAP普及の広がりも期待されるところです。

加えて学生が JGAP 指導員資格の取得にもチャレンジするなど、JGAP を核にした多様な取り組みは、高校生の学習面の効果のみならず、GAP の普及に大きな役割を果たしているとして、高く評価されました。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。

2014 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

NEWS RELEASE

迫田登稔（農研機構 中央農研センター 上席研究員）

特別賞となった山形県立上山明新館高等学校の取り組みに加え、下記の 2 事例とともに GAP 普及大賞を受賞しました。いずれも優劣付けがたい GAP 普及の優良事例です。

－GAP 普及大賞－

■国内随一のじゅんさい産地において GAP による高品質化を目指す取り組み

<受賞者> 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（秋田県）

－GAP 普及大賞－

■魚沼コシヒカリの産地における JA と行政が連携した GAP 普及の取り組み

<受賞者> JA 北魚沼 GAP 部会（新潟県）

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2014」

日時：2014 年 7 月 31 日（木）13 時から 17 時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/index.html

問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____